

名月を

取ってくれろと

泣く子かな

一茶



今月の一句

十五夜

じゅうごや

いかにも子ども好きの小林一茶らしい名句である。

秋の夜空に輝く満月を取ってくれとねだる子と、どうすればいいか分からずにおろおろしている親との何とも言えないほほえましい姿がありありと見えてくる。ところが、近ごろではしつけといつてわが子を虐待して死

に至らしめる親や、ささいなことで親をあやめる子など、何ともおぞましい事件の絶えないのは、まことに悲しいことだ。

「便利さ、快適さ、速さのみを求め続けると、わが国古来のゆるやかであったかき精神文化が失われ、「文明が発達すれば、人間が幸福になるといふのは間違いだつ

た」ということが、現実味を帯びてくるのではあるまいか。

今年の十五夜は9月15日である。かぐや姫が住み、兔が餅をつくというお月様が澄み切った秋空にかかるのを見たいものだ。

名月や

姫も今宵は

眠られず

秀邑

